



COMMUNICATION ON
PROGRESS

This is our **Communication on Progress**
in implementing the principles of the
United Nations Global Compact and
supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.

株式会社 富士メガネ (Fuji Optical Co., Ltd.)

Communication on Progress

2019 年度

* 対象期間: 2019 年 1 月 ~ 2019 年 12 月まで

連絡先

株式会社 富士メガネ 総務部 山崎 千絵 (ヤマザキ チエ)

Email: chie.yamazaki@fujimegane.co.jp

電話: +81-11-221-2859

Fax: +81-11-231-7675

会社概要

会社名：株式会社 富士メガネ

本社所在地：〒060-0062 札幌市中央区南2条西1丁目3番地 北専ビル9階

従業員数：584名(2019年12月1日現在)

正社員 498名(男性 305名、女性 193名)

パート社員 86名(男性 25名、女性 61名)(比率 14.7%)

事業内容：メガネ、サングラス、補聴器、メガネ付属品等の販売及び修理

グローバル・コンパクト 10 原則

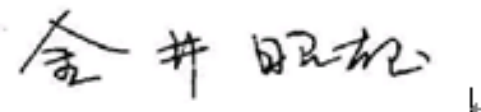
- | | |
|------|--|
| 人権 | 企業は、
原則1: 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、
原則2: 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。 |
| 労働基準 | 企業は、
原則3: 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、
原則4: あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
原則5: 児童労働の実効的な廃止を支持し、
原則6: 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。 |
| 環境 | 企業は、
原則7: 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
原則8: 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
原則9: 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。 |
| 腐敗防止 | 企業は、
原則10: 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。 |

トップステートメント

株式会社富士メガネは、2004年12月にグローバル・コンパクトに加盟いたしました。以来GC10原則を支持し、実現に向けて活動を継続しております。また、「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同しその推進に取り組んでおります。2019年12月には、「第3回ジャパンSDGsアワード副本部長（外務大臣）賞」を受賞いたしました。

当社は、「視力」の改善が人々の「未未」を切り拓くことにつながるとして、1983年から「海外難民視力支援活動」に取り組んでおります。この活動は長年、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）からの協力を得て行っており、今年度は「第15回（通算第37回）アゼルバイジャン視力支援ミッション」を実施いたしました。また、イラク・クルディスタン地域の国内避難民（主に子供達）やバングラデシュへ避難してきたロヒンギャ難民への眼鏡寄贈も実施しております。

難民支援活動の一環として、当社が2013年から継続しているUNHCRへの総額100万米ドル（毎年10万米ドル）寄付に加え、2018年から始めた総額100万米ドル（毎年10万米ドル）の寄付を、難民の日（6月20日）に行いました。



代表取締役会長・社長兼任 金井 昭雄

2020年3月15日

人権分野に関する活動報告

本年度の活動目標・内容・結果の測定	評価	来年度の活動目標・内容
<p>人権教育 新入社員研修及び全店営業研修回で年 1 回実施</p>	◎	<p>全社員へ向けて研修の機会を実現</p>
<p>難民支援</p> <p>UNHCR との連携による海外難民視力支援活動の実施(年 1 回) 於:アゼルバイジャン共和国</p> <p>UNHCR との協力関係 30 年を記念し、毎年 10 万米ドルを 10 年間(総額 100 万米ドル)の寄付を宣言、7 回目の寄付を実施 * 世界の難民の教育、女性の自立など支援</p> <p>創業 80 年と UNHCR との協力関係 35 年を記念し、また国連による「難民に関するグローバル・コンパクト」採択への賛同を表明のため、毎年 10 万米ドルを 10 年間(総額 100 万米ドル)の寄付を宣言、2 回目の寄付を実施(6 月 20 日)</p> <p>2018 年 9 月に UNHCR への追加支援として、毎年 10 万米ドルを 10 年間(総額 100 万米ドル)の寄付を宣言、2 回目の寄付を実施(6 月 20 日)</p> <p>全社で難民支援啓蒙活動(UNHCR 広報ポスター掲示、DVD 放映)を実施</p>	◎ ◎ ◎ ◎	<p>同国で国内避難民・難民を対象に同規模で実施(継続)</p> <p>2013 年から 2022 年迄の 10 年間に亘って毎年実施(6 月 20 日、「世界難民の日」に国連 UNHCR 協会を通じて送金) 8 回目</p> <p>2018 年から 2027 迄の 10 年間に亘って毎年実施(6 月 20 日、「世界難民の日」に国連 UNHCR 協会を通じて送金) 3 回目</p> <p>2018 年から 2027 迄の 10 年間に亘って毎年実施(6 月 20 日、「世界難民の日」に国連 UNHCR 協会を通じて送金) 3 回目</p> <p>継続的に実施</p>

<p>海外難民視力支援・眼鏡寄贈活動事例紹介 社外講演(1回実施)</p> <p>UNHCR「国連難民募金箱」を全社に設置(70箇所161個)し、募金活動を実施。全社総額(1,589,264円)を国連UNHCR協会へ送金(年1回、10月): 13回目</p> <p>国連UNHCR協会主催「UNHCR WILL2LIVE映画祭2019」特別協賛企業として広報活動に協力し、店頭でポスター掲示、チラシを配布(2019年9月~10月)</p> <p>2016年から継続している、IOM(国際移住機関)イラク事務所の要請によりイラク国内(クルディスタン地域)避難民へ、眼鏡1,500組を寄贈(2019年7月): 4回目</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>継続的に実施</p> <p>継続的に実施(14回目)</p> <p>要請に応じ、継続的に実施</p> <p>要請に応じ、継続的に実施</p>
<p>2017年に続き、UNHCRバングラデシュ事務所の要請によりバングラデシュに避難しているロヒンギャ難民へ、眼鏡1,500組を寄贈(2019年11月): 2回目</p>	<p>◎</p>	<p>要請に応じ、継続的に実施</p>
<p>その他</p> <p>北海道の盲導犬育成募金「ミーナの募金箱」を全社に設置(70箇所)し募金活動を実施。全社総額(283,025円)を送金(年1回、1月): 8回目</p>	<p>◎</p>	<p>継続的に実施(9回目)</p>

労働基準分野に関する活動報告

本年度の活動目標・内容・結果の測定	評価	来年度の活動目標・内容
<p>出産・育児・介護支援</p> <p>出産・育児休業制度取得支援 実数 13 名が取得(対象者の 100%)</p> <p>子の看護制度、介護制度取得支援 実数 1 名が取得(対象者の 100%)</p> <p>子の看護制度、介護制度取得支援 実数 1 名が取得(対象者の 100%)</p> <p>有給休暇取得奨励</p> <p>有休取得のべ人数 (人数:昨年比 162 名増、113.75%)</p> <p>有休取得日数 (昨年比 288 日増、113.7%) ※有給休暇全日数は昨年から 167 日増(約 1.6%増)</p> <p>取得日数は全休暇日数の 12.6% (昨年から 1.5%増)</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p>	<p>取得しやすい職場環境整備を継続</p> <p>取得しやすい職場環境整備を継続</p> <p>取得しやすい職場環境整備を継続</p> <p>より取得しやすい職場環境整備を推進</p> <p>より取得しやすい職場環境整備を推進</p> <p>より取得しやすい職場環境整備を推進</p>

<p>時間単位有給休暇取得奨励 297 名取得(昨年比のべ 52 名増、121.2%) 1052 時間(昨年比 228 時間増、127.7%)</p> <p>障がい者雇用の促進</p> <p>雇用人数 重度: 5 名 一般: 5 名 障がい者雇用率 2.6%(2019 年 3 月現在) (法定雇用率達成比率:125%)</p> <p>その他</p> <p>長期療養から復職後の時間短縮勤務 1 名(希望対象者の 100%)</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>取得しやすい職場環境整備を継続</p> <p>職場環境整備を継続</p> <p>該当者の有無により対応継続。職場環境整備を継続</p>
---	----------------------------	--

環境分野に関する活動報告

本年度の活動目標・内容・結果の測定	評価	来年度の活動目標・内容
<p>地球温暖化の防止</p> <p>3店舗(イオン栃木店、月寒店、苫小牧駅前店)の改装に伴い照明設備をLEDに切り替え。年間のCO2排出量を60%(試算値17,018.87kg)削減</p> <p>自転車共同利用サービス「ポロクル」専用の駐輪場(サイクルポート)設置に継続して協力。 利用回数: 3,062回 利用期間: 2019年4月26日~10月31日、189日間 (昨年比107.35%)</p> <p>地球環境汚染の防止</p> <p>レンズ加工時に発生したプラスチック廃棄物を社内規約に基づき適正に廃棄処理を行い、マイクロプラスチックによる海洋環境汚染を防止</p> <p>その他</p> <p>各店舗において地域美化活動へ参加</p>	<p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>既設店舗の照明を順次LED化 (店舗移設、新設時には全照明をLEDに切り替える)</p> <p>継続して実施</p> <p>継続して実施</p> <p>継続して実施</p>

腐敗防止分野に関する活動報告

本年度の活動目標・内容・結果の測定	評価	来年度の活動目標・内容
社員行動における腐敗防止の徹底 「公務員、取引先との贈答接待等は、法令や社会通念に逸脱して行わない」を役員、全店長、社員を対象に都度徹底、指導	○	引き続き、役員・社員教育の継続、告知を徹底する

このコミュニケーション・オン・プログレスの報告内容をどのようにステークホルダーに伝えますか。

自社のウェブサイトに掲載する